

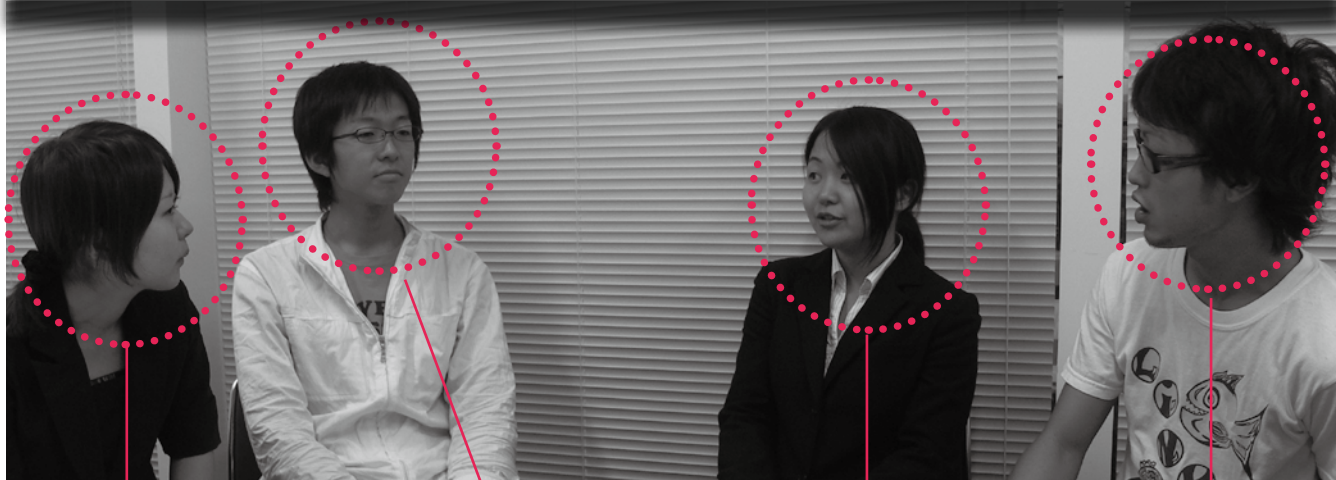
あなたとわたし

性別や年齢の違いを超えて平等にともに手を携える関係でありたいから

vol.28
2008.12月上旬号



若者は共生する社会をめざす 男女共同参画社会をこう考える



理工学部でアニマルセラピーを学ぶ大学生、
加園瑠美さん

小学校教諭を目指して
教育実習中の大学生、
明智弘樹さん

社会人1年生。
鉄道会社勤務。駅で働く、
大川菜美さん

理工学部で廃棄物につ
いて研究をしている、
岩岡良平さん

男女共同参画社会を、地域社会の明日を担う若者たちはどのように受け止め、考えているのでしょうか。福生市在住の4人の若者に集まっていただき、男女共同参画社会をどのように受け止めているか、それを実現するために社会や組織にどんなことを期待しているのか、そんな思いや希望を話しあっていただきました。成人し、大人の仲間入りをしてからまだ日が浅い彼らです。男女平等がごく当然になっている彼らと共に、男女共同参画社会を考えてみましょう。

●まず、男女平等について、どうとらえていますか？

明智 学校で男女平等ということを知ったかどうかは覚えていませんが、何か決めごとをする時に平等じゃないといけないという意識はありました。生活の中での男女平等という意識は小さいころからあった気はします。

加園 中学・高校は私立で、女子が7割くらいで、男子は肩身が狭いような感じでした。技術・家庭という教科は、男女別々の履修ではなく、両方も学ぶ方針でした。特に、女子が被害者意識を持つことはなかったと思います。

大川 学校では先生も生徒も男女比は半々くら



「同じこと」ではなく「できること」を率先して。そして、後輩

いでした。先生も平等に見るし、私たちもお互いに尊重しあえるといった環境で育ちました。平等が大事という教育も知らず知らずのうちに身につけていたと思います。

明智 ただ、仕事や家庭では、男性の方が優位かなと思います。昔からの「男性は仕事」といった考えがあるからじゃないでしょうか。

ぼくはまだ、家庭を持っていませんが、男女のこだわりはありません。相手を尊重し、協力していこうという考えがあります。

大川 私たちの世代というのは、育休などのしくみができてきているから、それに乗って働けばいいということになっていますよね。上の人がかんばってくれて、真ん中あたりで議論して、私たちはしてもらってばかり。

加園 ジェンダーフリー（注1）について友人たちと話したことがあります。男女平等だったらトイレだって、お風呂だって一緒でいいという話に行き着いたけれども、それはちょっと違うと思います。

●職場や社会での男女の扱いをどう感じていますか？

加園 姉に子どもが生まれたのですが、姉も自分の時間がほしいということで、義兄と私とで赤ちゃんを連れてデパートに行くことがあります。そこで、ミルクを飲ませようということになりました。女子トイレには授乳室が併設されているのに、男子のトイレにはおむつをかえられるところが1か所あっただけ。

結局、赤ちゃんが遊ぶ場所で飲ませました。

岩岡 レストランでアルバイトをしたときです。力仕事になると僕にまわって来るんですよ。アルバイトの人がこんなにいっぱいいるのに、どうして自分だけ言われるのかと思っていました。そのうちに、女の人には持てないような、重い荷物を持ったりする仕事なので、男女まったく同じにする必要はないと思うようになりました。

大川 働き出して半年しかたっていないのですが、学校と会社だと全く違うのを感じています。特に、私の会社は鉄道会社なので、男性が多い。ベテランの人はほとんど男性、管理職は男性、駅長も男性、管理職で女性というのはすごく珍しいという環境です。



加園さん

大川さん

明智 育児休暇が制度的にあっても、復帰した後ブランクがありますから、周りの雰囲気はどうか。重要な仕事が任せてもらえず他の人に行ってしまったりしていませんか？

大川 私の会社の場合ですと、産休・育児休暇も充実していて、もちろん育休をとった後も同じ職場に復帰できるし、男性で育児休暇を取った人もいます。平等を進めようという動きはあるなとすごく感じています。（参1）

加園 父子家庭や、妻がばりばり働いている家庭で、夫が子どもをおぶって散歩に行ったりしたら、まわりから「あの人の奥さん何やってるのかしら」とか「男性のくせに働かないで」とかいったことを言われそうですね。そうではなく、やりたいことを容認できるような認識教育が必要なのではないかと思います。

岩岡 経営者からすると、体力的に大変な仕事ほど、男性を頼りにしているかなと思います。社会の中で、男性の行動範囲内に授乳室が少ないというのも、男性で育児をしている人は、圧倒的に少ないという現状があるからではないでしょうか。そのスペースを減らせば、デパートだったら売り場面積を増やすことができる。企業としての経営効率を優先しているようなところがあるのだと思います。

大川 私の職場では、女性は夜ひとりで駅の立ち番をさせない、とかの決まりがあります。女性を危険から守ろうという配慮から生まれたものかもしれませんが、できる仕事が限られてしまう。それを男女の差別とはと



明智さん

岩岡さん

らえないのですが、やりたい意欲を發揮できないのは、どうにかならないのかと思います。

加園 私たちの世代は男はこう、女はこうだというふうに思っている人は少ない。個々ではさほど差別的な考えを持っている人はいないと思います。それが会社に入るとその職場の雰囲気や伝統などにあわせざるを得ない現実がありますよね。でもそれでは変化していかない。考え方を新しくしていった方がいい部分があると思います。

岩岡 やりたいと思ったときに男性だから、女性だからといった隔たりがなくなればいいと思います。

●男女共同参画社会について考えを聞かせてください。

加園 女性の社会進出といったことではもうそんなに騒がれなくなった世代ですよね。私たちは開かれた道を歩けるようになっていますが、男女共同参画といった言葉は、ちょっと伝わりにくい。

岩岡 男女共同参画というものに対して、まだ実感がわかないんです。

僕ら以下の若い世代は、楽な方、楽な方って突き進んでいく。いま、ボーイスカウトで中学生を指導しているのですが、彼らはどうすれば楽できるのかっていうことしか考えていない感じです。何かに参加するのも、面倒くさい、今のままで別にいいじゃんという人は多い。だから今いろいろな活動が鈍ってきているのはそういうことがあるのではないかという気がします。

注釈1 ジェンダーフリー
社会的・文化的に形成された性差別の克服を目指す考え
(広辞苑第6版より)

参考1 都調査によると育児休業を取得したい男性は7割、取得率0.7%。(平成18年度東京都男女雇用平等参画状況調査結果報告書より。都内の事業所に勤務する男女5,000人を対象)

参考2 男女共同参画社会基本法に基づく国の男女共同参画基本計画により、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が30%以上になるよう期待し、取組の推進が定められている。

大川 男女共同参画社会というのは、男性と女性がまったく同じことをする社会ではなくて、女性の特徴を生かしたような仕事であっても、それが好きな男性もやる。もちろんその逆もあって、その自由を認めてもらえるような制度になっていけば、うまくいくんじゃないかと思います。

加園 男女それぞれの持ち味を生かした役割があると思います。たとえば介護の職場では同じ性の方に介助してほしい、同性介助を求める人が多いのです。男性が女性の介助をしてあげたいと思っても、恥ずかしいからいやだという人もいますよね。

大川 どちらにしても、男女が同じように仕事をしていく社会をつくっていくのは、働く人の意欲だと思うのです。自分たちがやりたい仕事を「やりたい」と声を出さないと、やりたいということもわからないし、動きが出てこないと思います。少しでも動き出していくと、「私も実は」「僕も実は」というのが出てくると思うのです。制度をつくるのも大切ですが、声を出していくのが大事だと思います。(参2)

加園 女性が枠から脱するには、女性同士の評価が大切じゃないかと思います。女はやらなくていいよとか、自分たちで制限している部分もあるんじゃないでしょうか。女性同士で変えなくてはいけない部分があると思います。

大川 長い目で見ると自分たちが職場で上になったときに、後輩に対してどう接していくか、いますぐには変わらなくても何年後に変わっていく。自分たちが動かす世代になったときにどう広げていけるかだと思います。

加園 知っていると知らないとでは大きな差があると思



います。男女共同参画についてもっといろいろな人に知ってもらったら、こういう考えもあるけれども、自分はこうだなどと考えられたり、自分以外にも同じように思っている人がいるんだと、行動が起こせたりしますよね。啓発がまだ足りないなと思います。

明智 今日話してみて、男女が協力しあい、お互いを尊重しあうことが必要だなと思いました。自分はまだ働いていないけれども、大川さんが言っていたように、自分が上の立場になったときに、後輩に対して指導していきたい。

岩岡 そうですね。まず、僕らの世代が受け入れ、率先して実行することでしょうね。

●男女共同参画社会とは女性も男性もそれぞれの性差や年齢、経験等にかかわらず、持てる力を出し合い、協力しあう、元気ある社会です。性差を超えた個人の特性を活かして、男女かかわりなく、一人ひとりが協働する社会。家庭で、職場で、街なかでそんな協働を実現することです。

掛け声だけでなく、実体が着実に成果をあげていけるよう、若い皆さんに期待をしています。

ありがとうございました。



女性悩みごと相談

福生市・羽村市にお住まいの女性ならどちらの市でも相談を受けられます。

自分自身の生き方に関すること、夫や恋人からの暴力や女性を取り巻くさまざまな悩みごとの相談に応じます。来所できない場合は電話での相談も可能です。(予約制。1日先着3人まで。予約は相談日の1か月前から。1か月前が祝・休日の場合は翌日からになります。)

◇相談員／専門女性カウンセラー

◇相談日・場所・申込み

福生市

相談日：毎月第2・4水曜日

午前9時から
午後1時まで

場 所：市役所1階 第一相談室

申込み：秘書広報課広報広聴係
電話 042-551-1568

羽村市

相談日：毎月第1・3・5水曜日

午後1時30分から
4時30分まで

場 所：羽村市役所東庁舎1階
福祉事務所内相談室

申込み：羽村市広報広聴課市民相談係
市役所代表電話 042-555-1111



市民編集員募集！

「あなたとわたし」の編集員を募集しています。興味のある方は、協働推進課までご連絡ください。

ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

本誌は、市民がつくる市民のための男女共同参画情報誌です。ご感想をはじめ、今後特集で取り上げてほしいテーマなどのご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。ホームページからお送りいただけます。トップページ左側の市民のご意見箱をクリック、メールフォームをご利用ください。

市民編集員

- 寺崎敏枝
- 柏倉利明
- 牧野 霞
- 太田正雄
- Saeko.S (イラスト)

企画編集

NPO法人 NAFA 子育て環境支援センター

あなたとわたし vol.28 2008年12月上旬号

発行：福生市 生活環境部 協働推進課
〒197-8501 東京都福生市本町5番地
電話 042-551-1511 (内線) 2552・2553
<http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

広告スペース

広告スペース